

父眠る墓 手合わせ涙

フィリピン残留邦人 富里さん

【うるま】太平洋戦争前にフィリピンに渡った県出身の故富里清繁さんと現地の日系人女性の間に生まれたフィリピン残留日本人の富里ゼナイダスマコさん(78)が26日、うるま市津堅島にある「き父の墓参り」初めて訪れた。父が眠る門中墓に手を合わせ、「父と再会でき、家族にも会えてうれしい。父を失つてから孤独やつらかった思いがここに来て全て消え去った」と涙を流した。異母弟の富里利雄さん(71)ら親戚も同行した。

訪れた。父が眠る門中墓に手を合わせ、「父と再会でき、家族にも会えてうれしい。父を失つてから孤独やつらかった思いがここに来て全て消え去った」と涙を流した。異母弟の富里利雄さん(71)ら親戚も同行した。



門中墓に身を寄せ、亡き父への思いをはせる富里ゼナイダスマコさん=26日 うるま市・津堅島

ゼナイダさんは約10分間、目に涙を浮かべながら墓に顔を寄せた。父には「墓参りをしたいとの願いがかない、沖縄で家族にも会えたことに感謝を伝えたい」という。「父は生前、地域に貢献したこと聞いた。父の子であつたことを誇りに思う」とほほ笑んだ。

島で出迎えた親戚の東松根信子さん(62)は「お会いできて良かった。ゼナイダさんは利雄さんに会つて、自分は一人じゃなかつたと実感したと言つていた。これまでどんな苦労があったのだろうか」とおもんぱかつた。異母弟の富里哲司さん(59)は「親父はきっと墓でありがとうと言つている。帰国しても今日のことを糧に長生きしてほしい。次は自分がフィリピンを訪れたい」と再会を誓つた。

比残留孤児
富里さん

うるまで仏壇に祈り

戦後撮影された富里清繁
さんの写真（富里利雄さ
ん提供）

74年ぶり父と“再会”

「家族会わせてくれた」

【うるま】戦争で父と生き別れとなり、フィリピンに残留した富里ゼナイダス

ミコさん(78)が26日、父富里清繁さん(故人)の墓や位牌に祈りをささげ、約74

年ぶりの“再会”を果たし

た。ゼナイダさんは同日、

清繁さんの故郷うるま市津

堅島や仏壇のある市勝連平

敷屋を訪れ、父の生きた証

しをたどった。親族らから

歓迎を受け「父は私を愛し

てくれていたと感じた」と

喜びをかみしめた。

清繁さんの墓前に座つた

ゼナイダさんは、時折涙を

拭い、亡き父に語り掛ける

ように静かに祈った。「小

さい頃から孤独や不安を感じていたが、父が家族に会わせてくれた。私は一人じ

やなかつた」。清繁さんは「置き去りにされたと思つて、父は私を忘れていた。父は私を忘れていたのかつた」とほほ笑んだ。

仏壇のある異母弟の富里

利雄さん(71)の自宅では、位牌に向かつて祈りの言葉

をささげたゼナイダさん。

生前の清繁さんが地域の活動に尽力していたことを聞き、「誇らしく思う」と笑つた。2015年にゼナイダさんと対面し、今回の来沖にも協力した利雄さんは

「自分が元気なうちにおやじがやり残したことを実現したかった。おやじも喜んでいるだろう」と語った。

富里清繁さんの位牌に手を合わせ、祈りの言葉をささげる富里ゼナイダスミコさんと親族ら 26日、うるま市勝連平敷屋

